

立正大学心理学部

平成18年度公開講座

子どもの発達と特別支援教育を考える

第1回

現代の子どもの認知発達について

—高度情報化社会の中での今日の子どもたちの情報処理能力について、認知の発達から取り上げる—

- 10月14日(土) 午後16時00分~17時30分
- 講師: 山下 富美代 (やました ふみよ)
立正大学名誉教授

第2回

学校で苦戦する子どもたち、その背景には?

—脳科学から理解されること—

- 10月21日(土) 午後16時00分~17時30分
- 講師: 軍司 敦子 (ぐんじ あつこ)
国立精神・神経センター

第3回

これからの特別支援教育

—政策の動向を中心に—

- 10月28日(土) 午後16時00分~17時30分
- 講師: 樋口 直宏 (ひぐち なおひろ)
立正大学心理学部助教授

第4回

発達障害の子どもにみられる見る力の問題

- 11月11日(土) 午後16時00分~17時30分
- 講師: 奥村 智人 (おくむら ともひと)
大阪医科大学LDセンター

会場 立正大学 大崎校舎 11号館 (総合学術情報センター) 5階 1151教室

募集要項 ■対象/16歳以上の方 ■定員/100名 (定員を超えた場合は抽選) ■受講料/無料 ■託児あり (2歳以上) 無料 (要事前申込) おやつ代400円 ■申込方法/往復はがきに講座名「立正大学心理学部公開講座」住所・氏名(ふりがな)・年齢・性別・連絡先電話番号・託児希望(お子様の氏名(ふりがな)・年齢・性別)を記入のうえ、品川区教育委員会(下記、問合先参照)までお申込みください。 ■申込期間/平成18年9月1日(金)~9月22日(金) 消印有効 ■問合先/品川教育委員会 生涯学習課学習推進係 〒140-8715 品川区広町 2-1-36 TEL.03-5742-6837
※ご提供頂いた個人情報は、立正大学心理学部公開講座のみに使用し、この目的以外には使用いたしません。

募集要項

対象：16歳以上の方
定員：100名(定員を超えた場合は抽選)
受講料：無料
託児：託児あり(2歳以上)無料(要事前申込)
(おやつ代として400円/全4回分)

申込方法：往復はがきに講座名「立正大学心理学部公開講座」・住所・氏名(ふりがな)・年齢・性別・連絡先電話番号・託児希望(お子様の氏名(ふりがな)・年齢・性別)を記入のうえ、品川区教育委員会(下記、問合先参照)までお申込みください。

申込期間：平成18年9月1日(金)～9月22日(金)消印有効

問合先：品川区教育委員会 生涯学習課学習推進係
〒140-8715 品川区広町2-1-36
TEL. 03-5742-6837

※ご提供頂いた個人情報は、立正大学心理学部公開講座のみに使用し、この目的以外には使用しません。

会場案内

※駐車スペースがございませんので、車でのご来校はご遠慮下さい。

立正大学大崎校舎 〒141-8602 品川区大崎 4-2-16
TEL 03-3492-6196 (心理学部事務室)



交通アクセス

JR山手線	五反田・大崎駅下車	徒歩5分
東急池上線	大崎広小路駅下車	徒歩1分
都営浅草線	五反田駅下車	徒歩5分
東急バス 渋41 (渋谷駅～大井町駅)	大崎警察署前下車	徒歩3分

平成18年度

立正大学 心理学部 公開講座

受講者募集 (受講料無料)

10.14(土) 10.21(土)
10.28(土) 11.11(土)

開場：15:30～
開演：16:00～17:30

会場：立正大学大崎校舎
(総合学術情報センター)

11号館5階1151教室

子どもの発達と
特別支援教育を考える。

子どもの発達と特別支援教育を考える

わが国では子どもの数が少なくなっており、少子化対策は耳目を集めています。また、米国では自閉症と診断される子どもの数が10年前の2倍、1世代前の10倍とも言われています。つまり166人に1人が広汎性発達障害と診断されているのです。そして日本でも、子どもの発達に関する課題が増えているという印象は否めません。

2006年度立正大学心理学部公開講座では、「子どもの発達と特別支援教育を考える」を統一テーマとして、4回にわたってそれぞれの分野でご専門の先生方に講演をお願いすることになりました。心理学や教育学、さらには視機能改善に取り組んでいる専門領域の観点から、みなさんと一緒に考えてみたいと思います。

第1回 10.14(土)

現代の子どもの認知発達について —高度情報化社会の中での今日の子どもたちの 情報処理能力について、認知の発達から取り上げる—

立正大学名誉教授 **山下 富美代**

少子・高齢化、IT化の進展の著しい今日、子どもの発達の加速化が指摘される一方、仮性近視や味覚異常などの知覚面での問題、注意の集中や持続不足、基礎学力の低下なども指摘されています。見る、聞く、話す、覚える、考える、創るなどの知的機能を認知といいます。ここでは現代の子どもの認知機能に焦点を置き、その発達のメカニズムや特徴を取り上げ、子どもの発達をどう伸ばしていけるかを考えていきたいと思います。

プロフィール



- 研究テーマ/注意機能とヒューマンエラー、感性情報処理の研究
- 学会活動・社会的活動/日本心理学会、日本教育心理学会、感情心理学会、交通心理学会、生理人類学会、認知心理学会会員、睡眠学会理事・編集委員、マーケティングリサーチ協会理事、電脳(株)交通安全研究所顧問

- 最近の研究成果/「発達心理学」(編著書)(日本図書協会選定図書 ナツメ社)
- 「集中力」(単著)(講談社現代新書)

第2回 10.21(土)

学校で苦戦する子どもたち、その背景には? —脳科学から理解されること—

国立精神・神経センター **軍司 敦子**

「ちょっと気になる子どもたち」の代表格ともいえるいわゆる軽度発達障害児。最近、小児期からの問題として、支援が望まれています。まわりの大人にしてみれば、「どうしてできないの」「なんできちんとやらないの」とイライラの素となる彼らの行動ですが、子どもの視点からはどうでしょう。「やろうとしてもやれない」「やろうするにはどうしたらいいの」といったたくさんの思いが寄せられます。中には、思いを言葉にして伝えることすら難しい子どもも少なくありません。そんな子どもたちの困難さには訳がある、そしてきちんと調べてみると、その対応策を見いだすヒントが得られることもあります。親や教師をはじめ多くの支援者が様々な指導や対応を試みます。しかし、本当に子どもたちの困難さを和らげる指導や対応となっているのか心配です。新しい脳科学の知見から検証しつつ、苦戦する子どもたちの長所にも理解を深めてみたいと思います。

プロフィール



- 研究テーマ/神経生理・心理学的検査を用いた発達障害の認知機能の解明
- 学会活動・社会的活動/日本特殊教育学会、日本臨床神経生理学会、日本小児神経学会、日本神経科学学会、日本小児科学会、日本生理心理学会、日本生体磁気学会、日本ヒト脳機能マッピング学会、Cognitive Neuroscience Society

- 最近の研究成果/「発声中の聴覚誘発反応」(共著)(2006年「臨床脳波」永井書店)「調音をともなう発声時のヒト脳磁場反応」(共著)(2004年「臨床脳波」永井書店)

第3回 10.28(土)

これからの特別支援教育 —政策の動向を中心に—

立正大学心理学部助教授 **樋口 直宏**

社会におけるノーマライゼーション化の動きや、軽度発達障害に関する研究の進歩を反映して、近年、障害のある児童生徒に対する教育制度の改訂が行われています。例えば、盲・聾・養護学校への就学の基準に該当する児童生徒が、小・中学校に就学することも可能になっています。また、学習障害(LD)・注意欠陥多動性障害(AD/HD)等の児童生徒についても、通級による指導の対象となりました。さらに、2006年6月には盲・聾・養護学校の区分をなくして「特別支援学校」とする内容の学校教育法改正案が成立し、2007年4月より施行される予定です。本講座では、これらの一連の政策動向を整理しながら、これからの特別支援教育のあり方について考えていきます。

プロフィール



- 研究テーマ/児童・生徒の批判的思考力の育成、授業研究
- 学会活動・社会的活動/日本教育学会、日本教育方法学会、日本教師教育学会、品川区立学校校区外部評価委員

- 最近の研究成果/「実践に活かす教育基礎論・教職論」(共編著)(2003年 学事出版)
- 「総合学習における批判的思考力の評価」(2005年「教育目標・評価学会紀要第15号」)

第4回 11.11(土)

発達障害の子どもにみられる 見る力の問題

大阪医科大学LDセンター **奥村 智人**

軽度発達障害の子どもたちには、「教科書や黒板の文字を写すのが苦手」、「本を読むとき文字や行を読み飛ばしてしまう」、「ボール運動が苦手」、「定規のメモリがうまく読めない」、「漢字がなかなか覚えられない」、「算数の図形の問題が苦手」などの特徴が見られることがあります。また、「眼珠の動きが十分でない」、「両目のチームワークがうまくいかない」、「形態や空間の認知が正しくできない」、「目と手の協応が悪い」など、視覚的な問題が上記のような学習のつまずきを引き起こすことがあります。今までの視力検査ではこのような問題はわかりません。このような子どもたちの見る力の弱さをどのように捉え、対応すればよいかを解説します。

プロフィール



- 研究テーマ/発達障害児の視機能と視覚認知、学習や運動に必要な視覚能力、スポーツ選手の視覚能力
- 学会活動・社会的活動/日本LD学会、日本小児神経学会、日本小児精神神経学会、American Academy of Optometry 会員、奈良県就学指導委員(2004~)

- 最近の研究成果/「しっかり見よう」制作指揮(2005年、理学館)(手軽にできる見る力の特別支援教育ソフトウェア)